

令和2年度 学校評価総括評価表

徳島県立阿南支援学校ひわさ分校

徳島県学校 教育目標	とくしまの未来を切り拓く、夢あふれる「人財」の育成	
学校経営の 基本方針	一人一人の特性に応じた教育を行い、その可能性を最大に伸ばし、社会参加や自立につながる児童生徒の育成を図る。	
本校の 教育目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 自らが生活するための基礎的な力を身につけ、進んで身の回りのことができる児童生徒を育てる。 2 健康で安全な生活に努め、一人一人に応じた体力づくりを行い、粘り強く活動できる児童生徒を育てる。 3 学ぶことに興味をもち、豊かな感性を養い、自分の思いを表現できる児童生徒を育てる。 4 生活経験の拡大を図り、人との関わりを深め、集団生活で協調できる児童生徒を育てる。 5 社会生活に必要な知識や技能を習得し、積極的に社会参加・自立できる児童生徒を育てる。 	
本年度の 重点課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 安心・安全な学校づくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防、事故防止対策の徹底 ・防災対策の充実 2 地域とともにある学校づくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・地域への啓発活動の推進 ・地域交流及び地域貢献の推進 3 多様性を育むキャリア教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感を高める教育活動の実践 ・教員の専門性、指導力の向上、状況に応じた指導の改善 ・小中高がつながる学びの推進 	
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策を行いながら、教育活動にあたって欲しい。 ・地域と連携しながら、さらなる防災教育の充実を期待する。 ・地域資源を活用しての活動を行ったり、地域での作品展示の際の広報をもっとしてアピールしたらよい。 ・高等部就業体験の話しや、卒業後の進路情報などを、中学校の進路説明会等で紹介していくとよいと思う。 ・中学校との交流及び共同学習の実施に向けて、行事への参加を含めて調整していくとよいと思う。 	
年度末総合評価		次年度への課題
<p>重点課題1 全教職員一丸となって感染症対策を徹底しながら、学習活動や行事を実施することができた。また、搜索訓練のルート変更や、避難訓練後の避難所体験等、地域や行政と連携をしながら新しい取組を行うことができた。</p> <p>重点課題2 作品展開催場所を新規開拓し、病院での開催では好評を得て開催期間を延長して開催した。また、公民館や道の駅に花のプランターを設置したり、薬王寺駐車場や国道の清掃活動を行い、地域貢献活動を行うことができた。地域への校外学習や、交流及び共同学習も、感染症の状況に配慮しながら実施し、体験的な活動を設定することができた。</p> <p>重点課題3 個々の実態把握を行い、外部の専門家のアドバイスを受けながら、目標設定された学習活動を推進することができた。また、小中高の連携を図りながら、学びの連続性を意識した体験学習を設定することができた。今年度は、オンラインによる公開研修会を開催し、専門性を高めることができた。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も、引き続き安心安全な学校づくりを推進し、感染症対策をしながら、個々の学びを深め、体験的活動を地域の状況を見ながら設定し、積極的に社会参加できる力を育てるキャリア教育を推進していきたい。 ・今年度から始めた阿南支援学校との交流及び共同学習を継続発展させ、支援学校同士の繋がりを深め、他校からの刺激を受けることで、子どもたちの学びを深化させていきたい。また、地域の中学校との交流及び共同学習が実施できるように、連携を図っていきたい。 ・作品展の広報をし、より多くの方に本校のことを知ってもらえるよう、地域に働きかけていくことも課題である。 ・児童生徒減少対策は本校の必須課題であるので、本校の進路指導や取組等を知ってもらう機会を設定し、理解啓発活動を継続して実施していきたい。

重点課題2 地域とともにある学校づくりの推進

		自己評価			次年度への課題と今後の方策
重点目標		評価指標と活動計画	評価		
小 中 学 部	<p>地域の方々と関わる機会を定期的に設け、人や場所が違場面でも学校で学習した力を発揮し、児童生徒の経験を広げると共に、本校の理解啓発を図る。</p>	<p>評価指標 ①年間2回以上、学校間交流を実施する。 ②希望のあった生徒について、居住地校交流を年間1回以上実施する。(牟岐中学校1名、日和佐中学校2名) ③児童生徒の安全が確保できる状況の確認をした上で可能であれば、地域に向いて活動する校外学習等を年間3回以上実施する。</p>	<p>評価指標による達成度 ①阿南支援学校との学校間交流を1回実施することができ、継続して行っている日和佐小学校との学校間交流も1回だけではあったが実施することができ、合計年間2回、学校間交流を実施することができた。 ②希望のあった生徒3名について、居住地校交流を年間1回以上実施することができた。(牟岐中学校3年生2回、日和佐中学校1年生2回、2年生1回) ③新型コロナウイルス感染症への対策等を行いながら、校外学習を5回実施することができた。</p>	<p>総合評価 <評定> A B C</p>	<p>少人数の学校であるため人や場所、経験の幅は狭くなりがちである。感染症対策等は必要な中ではあるが、経験や学校での学習の成果を広げるためにも学部で工夫や検討を行いながら、校外での学習活動を実施できるよう取り組んでいきたい。また、地域の方に学校に来て御指導いただく等の機会も活用していきたい。</p>
		<p>活動計画 ①-1 日和佐小学校との学校間交流の打合せを行う。(4月) ②-1 居住地校(牟岐中学校・日和佐中学校)との交流の打ち合せを行う。(4月) ①②-2 計画に沿って、学校間交流、居住地校交流を実施する。(通年) ③感染症等の状況を鑑み、児童生徒の体調や季節を考慮して、校外学習を計画し、実施する。(お接待事業、遠足他)</p>	<p>活動計画の実施状況 ①-1 日和佐小学校との学校間交流の打合せを行った。(4月16日) ②-1 居住地校(牟岐中学校・日和佐中学校)との交流の打ち合せを行った。(4月22日・24日) ①②-2 計画に沿って、学校間交流、及び居住地校交流を実施することができた。 〔日和佐小学校 11月4日 阿南支援学校 12月4日、 日和佐中学校 6月26日、11月26日、12月10日 牟岐中学校 10月1日、12月9日〕 ③牟岐少年自然の家への校外学習(10月2日)、お接待事業(10月9日)、釣り活動(10月15日)、竹紙漉き体験(11月24日)、徒歩遠足(2月26日予定)と5回校外学習実施することができた。</p>	<p><所見> コロナ禍で校外での学習活動に制限がある中ではあるが、相手校と相談して感染予防をした活動内容で学校間交流及び居住地校交流を実施することができた。また、季節や感染症の流行状況に配慮しながら、校外学習も実施することができ、児童生徒が日頃校内では学習できないことを経験することができた。また、今年度新たに実施された「体力アップインストラクター事業」を活用して体育の時間に講師を招くなどして、学校に来て御指導いただく機会をもつこともできた。</p>	

<評定基準> A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

重点課題3 多様性を育むキャリア教育の推進

		自己評価			次年度への課題と今後の方策
重点目標		評価指標と活動計画	評価		
小 中 学 部	<p>社会生活を送る上で重要なスキルとなる人と関わる力やコミュニケーション力の向上を図り、様々な場面で適切に対応できる力を身につける。</p>	<p>評価指標</p> <p>①個別の指導計画において、コミュニケーションや社会性に関する後期の学期目標の評価が、「達成」「ほぼ達成」となる割合が75%以上となる。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①個別の指導計画において、コミュニケーションや社会性に関する後期の学期目標がそれぞれ5～9立案され、その評価が「達成」「ほぼ達成」となる割合が84%であった。</p>	<p>総合評価</p> <p><評定></p> <p style="text-align: center;">(A) B C</p>	<p>コミュニケーションや社会性に関する課題はどの児童生徒にもあげられる課題である。今後もそれらの課題には継続して取り組み、難しいケースについては外部の専門家にアドバイスいただき、学部で共通理解を図りながら実践を積み重ねていきたい。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①-1 標準化された検査によるアセスメントを行い、客観的な実態把握を行う。(5～6月)</p> <p>①-2 個別の指導計画の年間目標及び学期目標にコミュニケーションや社会性に関する目標を設定する。(5月・9月)</p> <p>①-3 個別の指導計画に関するケース会で目標と手だてを共有する。(5月・9月)</p> <p>①-4 指導の経過について、進捗状況等を見直しケース会等で報告し、指導について検討したり共通理解を図ったりする。(7月・12月)</p> <p>①-5 設定した目標に対する評価を行う。(9月・2～3月)</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 新入生及び中学部3年生、転校生について、標準化された検査(TTAP)によるアセスメントを行い、客観的な実態把握を行った。(5～6月・11月)</p> <p>①-2 個別の指導計画の年間目標及び学期目標にコミュニケーションや社会性に関する目標を設定した。</p> <p>①-3 計画通り個別の指導計画に関するケース会で目標と手だてを共有した。</p> <p>①-4 指導の経過について、進捗状況等を見直しケース会等で報告し、指導について検討したり共通理解を図った。</p> <p>①-5 設定した目標に対する評価を定期に行った。</p>	<p><所見></p> <p>児童生徒が社会生活を営んでいく上で重要な課題となるコミュニケーションや社会性に関する目標を、各児童生徒にたくさん立案し、目標達成に向けて担任を中心に取り組むことができ、達成率も高かった。コンサルテーション事業等外部の専門家にアドバイスをいただく機会も活用し、専門家からのアドバイスを学部で共有しながら実践したことも達成率の向上につながったのではないかと思われる。</p>	

<評定基準> A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

重点課題2

地域とともにある学校づくりの推進

		自己評価			次年度への課題と今後の方策
重点目標		評価指標と活動計画	評価		
高等部	<p>校外学習や地域貢献活動を行うことで、社会参加を勧め社会を養うとともに、本校の地域への理解啓発をはかる。</p>	<p>評価指標</p> <p>①生徒の実態に合わせた校外学習を、各クラス年間1回以上行う。</p> <p>②-1 地域貢献活動を年間2回以上行う。</p> <p>②-2 作業学習で栽培した花のプランターを道の駅や公民館に設置してもらい、理解啓発を図る。</p> <p>(感染症対策を図り可能であれば)</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①感染症の影響で各クラスごとの校外学習は行えなかったが、感染症対策を行い学部全体で3回校外学習を行うことができた。</p> <p>②-1 薬王寺のお接待を1回、花のプランター設置と薬王寺駐車場の清掃を3回行うことができた。</p> <p>②-2 プランターをの設置・撤収を行う際に、地域の方と触れ合うことができ、本校の教育活動の成果を見てもらうことができた。</p>	<p>総合評価</p> <p><評定></p> <p>A B C</p>	<p>次年度も感染症対策を図りつつ、生徒の実態や卒業後のニーズに合わせながら、社会体験や校外学習を計画し実施していきたい。また地域性を生かし、様々な場所や場面に外向いて活動し、社会参加と経験の幅を広げながら、理解啓発活動も行っていきたい。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①感染症の状況に配慮した上で、生徒の実態に合わせ、(買い物学習や公共施設・交通機関の利用)などの校外学習を計画し、実施する。</p> <p>②-1 薬王寺において、お茶や記念品のお接待活動や清掃活動を通じて地域貢献活動を行う。</p> <p>②-2 作業学習で栽培した花のプランターを道の駅や公民館に設置する。</p> <p>(6月・10月)</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①学部全体で高知県への遠足(10月)、竹紙漉き体験(11月)、川口ダムエネルギーミュージアムへの校外学習(2月)を計画し、感染症対策を徹底しながら実施することができた。</p> <p>②-1 感染症対策を行いながら、薬王寺において、お茶や記念品のお接待活動を1回、清掃活動を3回行うことができた。</p> <p>②-2 作業学習園芸で栽培した花のプランターを道の駅や公民館に設置・撤収の校外学習を3回行うことができた。</p> <p>(9月・12月・2月)</p>	<p><所見></p> <p>今年度は感染症対策のためクラスごとの買い物学習や交通機関の利用はできなかったが、感染症対策が徹底された施設や交通機関を利用することで学部全体で3回校外学習を計画し、回数は少ないが地域に外向いて活動することができた。</p> <p>地域において本校の生徒が活動したり、貢献活動を行う様子を見ていただくことで、理解啓発に繋がったと思われる。</p>	

<評定基準> A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

重点課題3

多様性を育むキャリア教育の推進

		自己評価			次年度への課題と今後の方策
重点目標		評価指標と活動計画	評価		
高等部	卒業後の進路や生活を見据えて、自己肯定感を高め、目標達成に向けて主体的に学習に取り組むるように、実態に応じた一貫性のある教育活動を行う。	<p>評価指標</p> <p>①個別の指導計画の後期目標に実態把握検査（TTAP）から出た「芽生え」レベルの課題を一人につき2個以上含んだ目標を設定し、その目標の評価が「達成」「ほぼ達成」となる割合が80%以上になる。</p> <p>②不登校の生徒や愛着障害の生徒のアプローチを中心にそれぞれの生徒の実態に応じた指導と効果的な賞賛を行うなど、学部教員が共通理解を図り一貫した指導を行うことで、対象生徒が自己肯定感を高め、その出席率が70%となる。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①すべての生徒において個別の指導計画の後期目標に実態把握検査（TTAP）から出た「芽生え」レベルの課題を一人につき2個以上含んだ目標を設定することができた。その目標の評価が「達成」「ほぼ達成」となる割合は87%であった。</p> <p>②不登校の生徒1名はコンサルテーションを受けたり学部教員が共通理解を図るなど生徒の実態に応じた指導を行うことで出席率は91%となった。1名は6月末までは81%であったが9月以降登校できにくくなり26%となった。愛着障害の生徒については出席率は80%であった。</p>	<p>総合評価</p> <p><評定></p> <p>A B C</p> <p>-----</p> <p><所見></p> <p>個別の指導計画の目標設定において客観的アセスメント「芽生え」の課題を含んで各生徒ごとに3～10個を含んだ目標立案ができ、その目標の達成率も高かった。</p> <p>不登校の生徒や愛着障害の生徒のアプローチについても、コンサルテーション事業で専門家にアドバイスをいただいたり、それぞれのケースで関係機関とのケース会を行い、その結果を学部会で共通理解をし取り組んできたことも出席率等の向上に繋がったと思われる。まだ難しいケースもあるが、今後も連携と共通理解を大切にしながら取り組んでいきたい。</p>	<p>アセスメント（TTAP）からの芽生えの目標の設定については定着することができたので、次年度はTTAPの一覧表へ目標設定時期・指導教科・評価等の記入の定着を図り、アセスメントに基づいた指導を系統的に行っていきたい。</p> <p>不登校や愛着障害の生徒のアプローチについては関係機関との連携を図ったり、学部内でも共通理解を図りながら取り組んできたが難しい課題は残っている。今後もそれらの課題には継続して取り組み、関係機関とのケース会など連携を図りながら、難しいケースについては外部の専門家にアドバイスをいただき、学部内でも共通理解を図りながら実践を行っていききたい。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①-1 新入生に実態把握検査（TTAP）を実施し、客観的な指標に基づいた実態把握を行う。（6月・10月）</p> <p>①-2 個別の指導計画の後期目標に実態把握検査（TTAP）から出た「芽生え」レベルの課題を一人につき2個以上含んだ目標を設定する。（10月）</p> <p>①-3 設定された個別の指導計画の目標を評価する。（9月・2月）</p> <p>②自己肯定感を高めるための一人一人に合った指導を行うために職朝や部会等で生徒の配慮事項の連絡を行ったり、学期に1回以上ケース会を行う。（通年）</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 計画的に実態把握検査（TTAP）を実施し、客観的な指標に基づいた実態把握を行うことができた。</p> <p>①-2 個別の指導計画の後期目標にTTAPから出た「芽生え」レベルの課題を生徒一人につき3個から10個含んだ目標を設定することができた。</p> <p>①-3 設定された個別の指導計画の目標を評価することができた。</p> <p>②一人一人に合った指導を行うために部会等で必要に応じて生徒の配慮事項の連絡を行ったり、それぞれの事例について学部でのケース会は2回以上、関係機関とのケース会もそれぞれ1回以上行うことができた。</p>	<p>学校関係者評価</p> <p>卒業後の進路を見据えた指導は重要である。継続した取組を。</p>	

<評定基準> A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

重点課題3 多様性を育むキャリア教育の推進

		自己評価			次年度への課題と今後の方策
重点目標		評価指標と活動計画	評価		
教 務 課	それぞれの学部の体験会についての情報交換、計画等の見直し、学校案内の見直しを行い、小中高の学びのつながりについて情報共有をする。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	<p>毎月課会が設定されていることで、定期的にそれぞれの学部のことについて情報共有ができたこと、担当分担の進捗状況が確認できたことは大変よかった。課題としては、課として新しいことをする場合、十分検討して、役割分担を決め、計画的に進めていくことである。今後も課の仕事のなかで、検討の必要があるものについては、その都度話し合い、よりよい方向にすすむよう計画的に進めていかなければならない。</p> <p>また学校案内のリニューアルについて、今年度末には素案作成する予定である。</p>
		活動計画	活動計画の実施状況	<所見>	
		<p>①小中学部の学習体験会、高等部の中学生体験入学について、情報を共有し、見直しをする。</p> <p>②学校案内の見直しをする。</p>	<p>①毎月の課会において、小中学部の学習体験会、高等部の中学生体験入学についての情報を共有することができた。</p> <p>②学校案内の見直しを図ったが、作成途中である。</p>	<p><評定></p> <p>A B C</p>	
		<p>①-1 課会において、小中学部の学習体験会、高等部の中学生体験入学について、実施要項等を資料に現状の情報共有をする。</p> <p>①-2 それぞれの体験会の計画スケジュールや準備等について検討し、改善点については、課としての案を作成する。</p> <p>①-3 課会で検討した案について、部会におろして検討し、計画スケジュールに沿ってすすめ、進捗状況を課員で確認しておく。</p> <p>②-1 参考資料として他校の学校案内より情報収集をする。</p> <p>②-2 見直しにあたってのタイムスケジュールを作成し、役割分担を決めて計画的にすすめる。</p> <p>②-3 作成にあたっては、進路課、支援課とも連携してすすめる。</p>	<p>①-1 課会において、各学部の体験会について実施要項を資料として、情報共有をすることができた。</p> <p>①-2, ①-3 各学部の体験会について、教務課が主導となって、計画・準備を進めた。課内でそれぞれタイムスケジュールを作成し、課会等で進捗状況を確認しながら、計画に沿って進めることができた。</p> <p>②-1 他府県の特別支援学校の学校案内を検索し、作成の際の参考資料とした。</p> <p>②-2 見直し、新規作成にあたってのタイムスケジュールを作成したが、計画的にすすめることができなかった。</p> <p>②-3 教育相談や進路関係の情報の掲載について、確認することができた。</p>	<p><所見></p> <p>小中学部、高等部それぞれの学部の体験会について、課会で情報共有をすることができた。また教務課としての当日までの仕事のタイムスケジュールを作成し、進捗状況を確認しながら、計画的にすすめていくことができた。</p> <p>学校案内の見直しについては、参考資料を集め、各学部に授業風景の写真集めを依頼した。レイアウトを作成したが、現時点でまだ未完成である。</p>	<p>学校関係者評価</p> <p>理解啓発活動を行うにあたり、学校案内は有効である。</p>

<評定基準> A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

重点課題3 多様性を育むキャリア教育の推進

		自己評価			次年度への課題と今後の方策
重点目標		評価指標と活動計画	評価		
進 路 課	<p>児童生徒一人ひとりの自己肯定感の向上、支援を受けながらの自立を目指したキャリア教育（教育活動）の実践を行う。</p>	<p>評価指標</p> <p>①高等部では、後期就業体験に向けて、職種や働き方、就労に必要なこと等についての進路ガイダンスを年2回以上特設する。</p> <p>②小・中学部では、はたらく体験学習が、高等部や卒業後の生活につながる活動であるとし、事前学習において話す機会を作る。</p> <p>③児童生徒の自己肯定感を高めるために、授業の中で実践できる取り組みや資料等を年3回以上教員に配付する。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①高等部で、7月に2回、進路ガイダンスを実施した。</p> <p>②12月のはたらく体験学習の事前学習で話す機会を作ることができた。</p> <p>③年3回、教職員に資料を配付することができた。</p>	<p>総合評価</p> <p><評定></p> <p>A B C</p>	<p>今年度、県の事業を活用して「キャリア教育出前授業」を実施した。企業の方からの就労に必要な力の話しは、生徒だけでなく、教員にとっても大変有意義な講義であったので、次年度もキャリア教育出前授業を実施したい。</p> <p>また、保護者向けの進路研修会の内容を改めて検討したい。</p>
		<p>活動計画</p> <p>① 職種等に関するアンケートを実施する。進路先や就労に必要なことを卒業生の実習の様子を写真や動画を提示し、分かりやすく説明することで、自分の進路について考えられるようにする。</p> <p>② はたらく体験学習の事前学習で、高等部での生活や卒業後の就労の様子を写真等を使って分かりやすく説明する。</p> <p>③人権の出張等で研修した事や資料等を配付する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①具体的に、職種等に関するアンケートを実施することはできなかったが、授業でふり返りの時間を設定し、好きな職種を聞いた。過去3年間の卒業生の就労写真やインタビュー内容、会計年度任用職員の就労の様子をスライドで提示した。</p> <p>②はたらく体験学習の事前学習で、就労をイメージできるよう昨年度の高部就業体験や会計年度任用職員の就労写真を使ってスライドで説明した。</p> <p>③自己肯定感を高めるための授業作りのためのセルフチェックシートやハラメント、性の多様性についての資料を配付した。</p>	<p><所見></p> <p>高等部では、前期に中止した就業体験の代わりとして、進路ガイダンスを実施した。就労に必要な力を確認でき、後期の就業体験にスムーズになぐることができた。</p> <p>中学部では、はたらく体験学習の事前学習で、高等部の就業体験のスケジュールや心構えを説明した。生徒は2日間、終日作業できた。</p> <p>授業の中で、児童生徒の実態に応じた支援や活動を行った結果、できることが増え、自己肯定感の向上につながった。</p>	

<評定基準> A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

重点課題1 安心・安全な学校づくりの推進

		自己評価			次年度への課題と今後の方策
重点目標		評価指標と活動計画	評価		
生 活 課	感染症対策について、児童生徒会役員が中心になって啓発活動を行い、健康に気をつけて学校生活を送ることができる。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	<p>コロナウイルスの影響が続く中、現在行っている手洗いうがいの励行やマスクの着用、教員による学校施設の消毒等は引き続き行っていき、養護教諭からの保健指導や児童生徒会の呼びかけもより一層重要になってくる。そのためにも先生方に指導頂き児童生徒会が中心になって、健康に気をつけ学校生活を送ることができるよう取り組む必要がある。</p>
		活動計画	活動計画の実施状況	<p><評定></p> <p>○ A B C</p> <p>-----</p> <p><所見></p> <p>コロナウイルスの影響が続く中、児童生徒が手洗いうがいの励行やマスクの着用、教員による学校施設の消毒等において、養護教諭からの保健指導や児童生徒会の呼びかけもあり、継続した取り組みを行うことができた。</p>	
		<p>①児童生徒会役員による感染症対策についての啓発や養護教諭からの保健指導等を行い、手洗いうがいの励行、学校施設の消毒について、教員・児童生徒に呼びかけ実践するよう促し、健康についての意識を高める。</p>	<p>①感染症対策について、養護教諭から保健指導を行ったり、児童生徒会役員からの呼びかけにより、手洗いうがいの励行、学校施設の消毒を行い健康について意識を高めることができた。</p>		
		<p>①-1 毎月の全校集会で感染症対策について、児童生徒会役員が啓発活動ができるよう、養護教諭と計画を作成する。(毎月)</p> <p>①-2 各手洗い場に、手洗いの方法を掲示したり、ハンドソープや手指消毒液を設置する。</p> <p>①-3 授業日には、教員が学校施設の消毒を行う。(毎日)</p>	<p>①-1 毎月の全校集会で感染症対策について、児童生徒会役員が啓発活動ができるよう、養護教諭と計画を作成することができた。</p> <p>①-2 各手洗い場に、手洗いの方法を掲示したり、自動で出るハンドソープや手指消毒液を設置した。</p> <p>①-3 授業日には、教員が学校施設の消毒を行った。</p>		<p>学校関係者評価</p> <p>感染症対策では苦勞していると思うが、継続して対策を講じて欲しい。</p>

<評定基準> A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

重点課題2 地域とともにある学校づくりの推進

		自己評価			次年度への課題と今後の方策
重点目標		評価指標と活動計画	評価		
生 活 課	ひわさ分校作品展を通して、本校の理解啓発を行う。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	<p>作品展の開催にあたっては、児童生徒の作品数に限りがあるため、早い段階で美術担当教員と計画を行い、実施に向けて取り組みむ必要がある。また、開催期間の日程調整も必要である。</p> <p>今回実施した海南病院では、2週間の実施期間ではあったが、病院を受診している患者の方から作品を見ていただき、大変好評だという意見を頂いており、来年度の作品に限らず過去の作品等を使い長期にわたって作品展示（作品展示という形ではなく、病院に飾ってもらう等）を行う計画を作成することも必要である。</p>
		活動計画	活動計画の実施状況	<p><評定></p> <p style="text-align: center;">(A) B C</p> <p>-----</p> <p><所見></p> <p>昨年度から引き続いて同じ場所での作品展示や新しい場所を2カ所開催することができた。担当者の方も大変理解を示してくれて、作品展を通して本校の理解啓発を行うことができた。</p>	
		<p>①昨年度開催した場所でのひわさ分校作品展を美波町や牟岐町、海陽町で継続して行うこと、新たにできる場所を交渉して実施できるようにする。</p>	<p>①昨年開催したひわさ分校作品展を継続して4カ所（美波町役場・海南文化館・海南病院・牟岐町海の総合文化センター）で開催し、新たな場所で2カ所（海陽町役場穴喰庁舎・美波町医療保健センター）交渉し実施することができた。</p>		
		<p>①-1 ひわさ分校作品展について計画を作成する。（10月）</p> <p>①-2 昨年度作品展を実施した場所や、新しく開催を計画した場所の担当者と連絡を取り、作品展開催に向けて打ち合わせをする。（11月～）</p>	<p>①-1 作品展について計画を作成し、12月に校内で周知することができた。</p> <p>①-2 開催に向けての打合せや開催場所などで担当者の方と話しをするなど、作品展に向けて十分な打合せを行うことができた。</p>		<p style="text-align: center;">学校関係者評価</p> <p>作品展は、よい啓発活動である。今後も開催場所を開拓しながら取り組んで欲しい。また、積極的な広報活動も行うとよい。</p>

<評定基準> A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

重点課題2 地域とともにある学校づくりの推進

		自己評価			次年度への課題と今後の方策
重点目標		評価指標と活動計画	評価		
支 援 課	地域のセンター的機能として、教育相談活動を充実させるとともに、地域との連携する機会やホームページを活用し、本校の特色や魅力についてアピールする。	評価指標 ①昨年度、相談件数の少なかった校種(中学校5件・高等学校0件)及び、電話相談の件数(昨年度0件)を増やす。 ②巡回相談員活動(保護者面談)や地域連携協議会で5回以上本校の概要説明を行う。 ③本校で作成した教材・教具をホームページに掲載する。	評価指標による達成度 ①今年度1月現在で、中学校の相談は1件、高等学校からの相談は0件であった。電話相談は4件であり、昨年度より増えた。 ②支援課(巡回相談員活動等)で本校の概要説明を行ったのは1回であった。美波町特別支援連携協議会でスライドを活用して説明を行った。 ③学校・家庭「まなびの力」向上支援事業で作成した動画教材(漢字の読みトレーニング)をホームページの改訂後に掲載予定である。	総合評価 <評定> A B C	巡回相談では今後も感染症予防として相談員が来校(園)しての相談が難しい場合や、緊急性の高い相談への対応できる電話相談の有効性を現場での広報を続けていく。中学校・高等学校からの相談に関しても、会議や研修の場でコーディネーターと連携・協力したり、小学校の相談からの継続としてアプローチしていきたい。 本校の広報活動についても、今後も地域連携協議会や保護者面談の場を通して行っていく。それに加えて、より本校のことを知ってもらう場としてホームページの活用を力を注ぎたい。本校の教材をホームページ上で紹介したり、研修会の申し込みフォームを開設することで、地域の方にホームページを見ていただける機会を増やしていけるよう環境設定を整えていく。
		活動計画 ①-1 挨拶回り等を通じて、中学校高等学校の特別支援教育コーディネーターに対して、広報活動を行う。 ①-2 年度始めに案内チラシを配布し、教育相談後にも事後のフォローとして電話相談等を活用してもらうことを広報する。 ② 学校案内の配布だけではなく、学校紹介ビデオを製作し、地域の先生や保護者に観てもらえるようにする。 ③ 家庭での学習や学校再開後の学習支援のために作成された教材等を取りまとめ、ホームページ上に公開する。	活動計画の実施状況 ①-1 感染症予防のため、例年実施していた年度当初の学校を訪問しての挨拶回りを実施することができなかった。地域のコーディネーターとは連携協議会や研修会で会う機会に広報を行った。 ①-2 年度始めに教育相談の案内チラシを配布した。教育相談の機会に電話相談の活用に関しても直接相談者に広報を行った。 ② 学校紹介ビデオの作成までには至らず、学校紹介の場面にはパワーポイントのスライドを活用した。 ③ 学校・家庭「まなびの力」向上支援事業で教材動画を1月末現在で10教材作成した。漢字検定に向けての漢字読みトレーニング教材を本事業の成果報告を含め、ホームページ上に公開予定である(2月末)。	<所見> 巡回相談員活動では、1月末現在で相談件数55件、相談対象児142名の教育相談を受けた。相談の件数は昨年度(40件)から増えているが、中・高等学校からの相談は増えなかった。 感染症対策により、学校の概要説明(広報)を実施できる機会が今年度はほとんどなかった。 教材・教具の作成と情報発信については積極的に行い、作成した動画教材は、学校の授業や行事で活用することができた。動画は音楽・体育教材よりも国語教材(漢字検定に向けたトレーニング)が作成のニーズや活用頻度が高かった。	

<評定基準> A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

重点課題3 多様性を育むキャリア教育の推進

		自己評価			次年度への課題と今後の方策
重点目標		評価指標と活動計画	評価		
支 援 課	<p>教員の専門性を高めるための研修を充実させ、個別の事例に対応できる指導力を向上する。</p>	<p>評価指標</p> <p>① コンサルテーション事業や社会人講師による指導、事例検討会を充実させ、子どもの実態や課題、指導内容を学校内で共有することができる。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>① 学校コンサルテーション、及び社会人講師による指導において、職員会議や学部の場を活用し、情報共有することができた。</p>	<p>総合評価</p> <p><評定></p> <p style="text-align: center;">(A) B C</p>	<p>本校は教員数が少なく、そのためのデメリットもあるが、学校全体で情報や行動の連携を取りやすいというメリットとなる環境でもある。外部の専門家から指導いただいたことを、担任だけが知っているのではなく、今後も全体で周知することで、児童生徒の理解や教員の専門性の向上にも繋がることを期待される。今後も引き続き、連携や研修の機会として、コンサルテーションや社会人講師の指導を活用していきたい。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①-1 コンサルテーション事業講師及び社会人講師と連絡調整し、担任等が指導を受けることができる機会を設定する。 ・PT/OT：年間4回 ・ST：年間3回 ・コンサルテーション：年間2回</p> <p>①-2 コンサルテーション事業及び社会人講師による指導(全9回)の前または後に学部会等で指導を受ける(受けた)内容を情報共有する。</p> <p>①-3 事例検討会を学部を越えて実施し、学校全体のチームとして課題(問題)解決に取り組む(随時)。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 学校コンサルテーションは西軽井沢学園の奥田健次先生より指導を2事例で受け、コンサルテーションを2回実施した。社会人講師からの指導は健祥会 PT/OT から3回、天満病院 ST から2回の指導を受けた(2～3月中にそれぞれもう1回ずつ指導日を設定している)。</p> <p>①-2 第1回学校コンサルテーションを受けた後に職員会議で事例報告を行った。第2回後は、小・中学部で事例報告会を行い、全体で事例研究発表原稿を回覧した。</p> <p>①-3 学校コンサルテーション前に事例検討会を6回実施した。事例に関わる関係者(同学部)のみの実施となり、学部を越えた参加はできなかった。</p>	<p><所見></p> <p>コンサルテーション、及び社会人講師からの指導を計画通りに実施することができている。指導を受けた内容を、参加した教員だけでなく、学部内や他学部の教員にも伝えることができた。児童生徒に関するケース会は必要に応じて行われ、学部外の教員が参加できるケース会は設定上(人数制限)や話し合う内容の性質上、難しかった。</p>	
					<p>学校関係者評価</p> <p>今後も専門性の向上に努め、よりよい実践に繋げて欲しい。</p>

<評定基準> A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

重点課題 1 安心・安全な学校づくりの推進

		自己評価			次年度への課題と今後の方策
重点目標		評価指標と活動計画	評価		
環 境 課	地域や行政と連携した避難訓練や防災教育を行い、防災対策の充実と防災意識を高める。	評価指標 ①避難生活の疑似体験を実施する。 ②行政機関や消防組合等と連携して防災教育に取り組む。	評価指標による達成度 ①仮設トイレ体験やダンボールベットを使った避難所体験、非常食の試食など実施した。 ②起震車体験での地震仮想体験や防災についての理解啓発となる掲示、水消火器を使った消火訓練など実施した。	総合評価 <評定> (A) B C	今後も地震・津波、火災、土砂災害などの避難訓練や、それらが複合した避難訓練を実施する必要がある。あらゆる防災の体験を実施することで、「もしも」のときに慌てずに行動ができる訓練を持続しなければならない。アンケート結果を活用してより充実した計画と、児童生徒の実態に配慮した避難訓練を実施していきたい。町内一斉の避難訓練等を通して、より一層地域との連携を深めて防災意識を高めていきたい。 また、備蓄保管庫内の整理や保管用品の精選をして、改めて必要な物資と量を備蓄しておく必要がある。
		活動計画 ①避難訓練後の体験活動で、ペットボトルやタンクを使った手洗い体験、防災用品の使用手法、非常食の試食体験をする。 ②-1行政機関等から土砂災害の資料を借りて土砂災害についての理解を深める活動を行う。 ②-2消防組合等と連携して消火活動の体験に取り組む。	活動計画の実施状況 ①ペットボトル水を使った手洗い体験や仮設トイレの組立体験、非常食の試食体験を行った。 ②-1県庁担当課から情報提供を受けて土砂災害の種類や被害状況などの掲示して理解啓発を図ることができた。 ②-2消防組合から水消火器等をお借りして消火訓練を2回実施した。	<所見> 土砂災害や火災、地震・津波など4回の避難訓練に加え、起震車体験、避難所体験を実施することができた。また、11/14(土)の町民避難訓練では、隣接する福祉施設以外の地域住民が避難してきたことがあったことから、より一層地域や行政と連携を深めて防災意識を高める必要がある。	

<評定基準> A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった